

■ 羽野書記長・総括答弁



大会2日間で代議員144名中73名の方から発言を頂いた。提起した運動方針に対して多くの補強と気づきを与えていただいた。

発言に対する回答については不足しているところがあるかもしれない。これから開催される各地本での大会を通じて補足をしていきたいと考えているので、地本大会であらためていろいろな意見を頂ければと思う。

この1年間の運動方針については運動方針に書き込んだ。これから開催される地本・支部・分会大会で説明をしていただきたい。

安全について

福知山線列車事故のようなことを惹き起こすと、どういことになるのかということであらためて自分に置き換えて考えていただきたい。朝「いってきます」と家を出ていった家族が「棺」で家に帰ってくるということ、さらには完治しない大きなお怪我を負わしてしまったということを我々は惹き起こした。ご被害にあわれた方やその方の家族の人生、生活を大きく狂わせてしまったということを肝に銘じていただきたい。

方針提起で、JR西労組組合員の安全意識や鉄道の安全レベルが高まっていることについては自信を持っていいと申し上げたが、ひとたび大きな事故を惹き起こすとそのようになるということである。

各地本から各エリアで発生したこれまでの事故について触れていただいた。本社総支部からはご被害者対応本部を忘れてはいけないという発言があった。私が本社総支部の書記長になった翌年に福知山線列車事故が発生したが、その年からこれまでご被害者対応本部の仲間は、会社の代表としてご被害者の方々に向き合い、対応をさせていただいていることを忘れていただきたい。

昨年の大会で西バスの前畑代議員から「ABC運動」の紹介があった。「(A)当たり前のことを(B)馬鹿にせずに(C)ちゃんとやる」ということであるが、これまで労使交渉を含めていろいろと使っている。人はどうしても楽をしようと手を抜いてしまうところがある。そこを馬鹿にせずにちゃんとやるのが本当に大事なところである。

高山線での墜落事故においても命綱をかけるということをお願いした。誰も「正常性バイアス」という自分は大丈夫と思う習性があるが、ルールを守ることをしっかりとやっていたいただきたい。安全考動計画検証アンケートでも明らかになっているが、「列車を迷わず止める・作業を止める」ということは浸透している。これも引き続き守っていただきたい。

昨年、皆さんにわかりやすい安全お守り手帳を作ったが、これを活用して安全に対する自分自身や

職場の点検に活用していただくことをお願いする。

安全考動計画が最終年度をむかえているが、残りの期間も目標の完遂に向けて取り組みを進めていただきたい。そして、次期計画の策定に向けては安全考動計画検証アンケートで出された意見や他産業の事例も参考にしながら秋以降に会社に対して提言を出していきたい。第2小委員会でも中バス地本の横山代議員の発言にもあったが、航空連合の取り組みを一つ紹介したい。「変更管理」という取り組みをANAでされており、「(H)初めて、(H)変更、(H)久しぶり」を3Hと言って、この時は特に安全に注意しなければならないということである。このような知見についても次期計画に対して提起していきたい。

グループを含めれば、すべての職場に業務に精通したJR西日本連合の組合員がいる。一人ひとりがチェック機能を果たし、一歩ずつ着実に安全のレベルを高めていくことができるのは、JR西労組、JR西日本連合だけであり、これは他労組にない大きな強みである。

冬のボーナス交渉について

皆さんが最も関心のある冬のボーナス交渉についてであるが、今年度に入り業績が回復基調にある。その状況からすれば、皆さんも昨年より期待値は高いはずである。第1四半期決算が出ていないので運輸取扱収入ベースでの比較になるが過去3年間の6/30時点の収入の累計を比較した。19年が2,400億円、20年が800億円、21年が1,110億円、今年が1,750億円となっている。今年は2年前の約2倍、1年前の約1.5倍である。コロナ前にはまだまだ及ばないものの数字だけ見るとすぐ回復しているように見える。

会社が発表している通期業績予想では鉄道の収入と費用から生み出されるもうけ(営業損益)は45億円ではない。代議員の発言や社長のあいさつにもあったが膨れ上がった1.7兆円の借金とそれに対する利払いも約200億円となっており、少々の利益を出してもそれらの費用が重くのしかかることになるため、今年を含めて来年以降も大変厳しい交渉になると思っている。

しかしながら、最近離職が増えているということ、また働いている皆さんのモチベーションが低下しているということがある。これは賃金が減少していることも一因であると考えている。このような状況で本

このチェック機能が安全のレベルを高める。全グループ職場に、業務に精通した組合員がいる。

当に鉄道の安全が守れるのかということになる。この間、会社へは「人財への投資を」と訴え続けている。ここにお集まりの皆さんを含めて現場の一線に働いている組合員の皆さんは「経営の土台」そのもの、この土台が揺らげばどうなるのかということも改めて会社へ訴えていきたい。期待通りの成果を勝ち取ることはできないかもしれないが、まずはこの夏季輸送かどうなるのか、第7波の影響も出だしており、ご利用が伸びなければ厳しい状況になる。しかし、お盆を含めた夏季輸送に期待するしかないのも事実である。

今一度、皆さんにお願いをしたいのは、しっかりと鉄道の現場を守っていただくということである。引き続きのご協力を要請する。

組織改正について

今年の10月に大きな組織改正がある。7月末に本部として最終交渉を行う。多くの皆さんから発言もあった。組織改正後も本部として検証を続けていく。JR西労組の地本組織については、会社組織が変わっても変更しない。会社は管理部門である支社が新大阪と広島に集約され、現場から距離が遠くなる。したがって、今後は会社に成り代わり職場の点検機能を地本・支部・分会の皆さんに果たしてもらわなければならないと考えているので、ご協力をお願いする。

女性活躍について

女性活躍や育介法の見直しに関して、本部で開催した男女平等推進委員会の中で「お互い様の精神」が必要ではないかと申し上げた。例えば、自分の子供が小さいときに仲間に助けをもらえば、自分の子供が大きくなった時に子育てで困っている仲間に助けをあげるということをすることでお互い様となる。これは子育てに限った話ではなく、全てのことに通じることでもある。ぜひとも皆さんにも「お互い様の精神」を実践していただきたい。

働きがいのある職場づくりについて

離職に対して、賃金だけで離職を食い止めることは難しいと思っている。賃金が減少していることだけで離職している人は少ないのではないかと。それも一因にはなっているが、それ以上に働きがいや低減している、楽しく仕事ができていないことが大きな原因になっているのではないかと考えている。

最近言われている言葉に「ゆるブラック企業」というのがある。これは、働きやすい働きがいのない企

業のことである。ブラック企業は超過重労働やハラスメントが横行するような企業のことを指していたが、この間それらを改善してきた我々世代からすれば、半分否定されていることにはなるが、働きやすさの追求が、働きがいのない会社を作ってしまったということである。ただ、働きがいの向上は、お金をかけずにできることがたくさんあるはず。Z世代やゆとり世代と言われる今の若手は自分が成長するために会社で働いているという価値観を持っていると一般的に言われている。昭和生まれ世代の価値観で考えるのではなく、そういった若い世代の意見を取り入れながら、令和時代に適した働き方とは何なのかを考え、働きがいのある職場を作っていきたい。

組織強化について

労働組合の必要性はこの2年間であらためて実感できたのではないかと。私を含めて皆さんも会社に入った時から労働組合があるのが当たり前という環境にいるため、いろいろな意見や不満も出てくると思う。無いとどうなるのか、なかなかイメージできないが、例えて言えば社会保障制度と同様に、労働組合は「セーフティネット」そのものであり、無いと困るものだと思う。

組織の強化については、いかに多くの方に運動に関わっていただくかが重要であり、さらには教育も必要である。簡単に、そして短期間にできるものではないが、各所での組織強化をお願いする。そして、役員の方には組合員一人ひとりに寄り添い、いろいろな声に耳を傾け、サポートしていただく分会、支部、地本を作っていただきたい。

政策・政治について

この2年間、本当にJR連合国会議員懇談会の議員をはじめ多くの議員にお世話になり、助けていただいた。今年に入り国交省で鉄道に関して設置された5つの分科会も今回再選された川合参議院議員が昨年の予算委員会の中でローカル線の窮状などを当時の菅総理に直接訴えていただいたことが一つのきっかけとなっている。今後も我々の声を、地方議員を含めた我々が応援する議員を通じて政治の場へ訴えていきたい。

最後に

本大会のスローガンに掲げたとおり、安全を基礎に総団結で未来を切り拓いていきたい。そのためにも本日お集りの皆さんには、各所で主役となり、職場のリーダーとして、誰かがやってくれるのを待つのではなく自らが進んで考動するという実践していただきたい。ともに頑張ろう!

第29回 機関紙コンクール

今回も、地本・支部・分会の機関紙の発行を促し、職場における身近なJR西労組運動の活性化につなげるために、機関紙コンクールを実施しました。組合活動の原点は分会活動であることから、その活動を周知する分会ニュースの発行に、特に力を入れて取り組んできました。今年度は、昨年に引き続き、コロナ禍の影響により集会や歓迎会などの開催が制限されたものの、コロナ禍だからこそ情報発信の重要であるとの考えから、各級機関で積極的に機関紙が発行されました。機関紙コンクールには、地本から24紙、支部から34紙、分会から42紙の合計100紙と昨年から1紙多い応募があり、構成・内容のほか、発行頻度や編集委員会制度の有無なども考慮して、中央本部執行部によって厳正な審査を行い、以下の表彰作品を決定しました。引き続き、機関紙の発行に力を入れて取り組みますので、よろしくお願いたします。

情宣活動における全機関の取り組み目標 掲示掲示板の機関紙などの定期的な貼り換えを確実に行う!! 各支部機関紙の100%発行、各分会機関紙の年2回発行を目指す!!

	地本名	発行機関	機関紙名	発行頻度	賞	コメント
地本の部	大阪	大阪地本	OSAKA!	毎月	最優秀賞	見出しが分かりやすく、読みやすいレイアウトです。また、タイムリーに号外を発行することで、地本活動の見える化が行われています。
	福知山	福知山地本	福知山地本ニュース	月2回	優秀賞	見出しだけで伝えたい内容が分かるので、内容が入ってきやすいです。写真も多く、見ている人を飽きさせない機関紙です。
	神戸	神戸地本	神戸地本NEWS	月2回	優秀賞	記事を絞ることで、内容が具体的にわかりやすく伝えられています。毎号で西労組LINEの登録者数拡大に向けた取り組みも行われています。
支部の部	神戸	姫路支部	姫路支部ニュース	毎月	最優秀賞	記事を読みやすい色使いで写真も多く楽しい機関紙です。また、共済制度など、組合員が知りたい内容が分かりやすく紹介されています。
	大阪	大阪支部	これから～Osaka Branch Monthly News～	毎月	優秀賞	写真が多く組合員が読みたくなる機関紙になっています。また、「今月一枚」など独自のコーナーを設けているのも印象的です。
	米子	石見支部	いさり火	毎月	優秀賞	写真と文字のバランスがよく、読みやすい機関紙です。記事のタイトルなどのレイアウトも工夫されています。
分会の部	京都	宇治運輸分会	宇治運輸分会だより	毎月	最優秀賞	今年度から機関紙を創刊されましたが、目的通り、活動内容が解説も含めて分かりやすく、分会組合員に対して活動の「見える化」ができています。毎月読みたくなる機関紙です。
	神戸	明石電車区分会	明電ニュース	毎月	優秀賞	写真が多く、伝えたいことが端的に分りやすく書かれていて、とても見やすい機関紙です。背景で季節感が表現されている点も見えて楽しいです。
	米子	浜田列車区分会	石見の風 浜BOON	毎月	優秀賞	盛りだくさんの内容で、今後の予定やお便りコーナーなど、組合員参加型で、読みたくなる機関紙です。

第23回 文化・文芸作品コンクール

◆写真部門 応募総数：14点(14名)

賞	作者名・地本/所属	作品名
最優秀賞	古賀健一郎 西バス地本/金沢支部	最後の春
優秀賞	尾本 樹哉 広島地本/下関管理駅分会	津和野からの帰還

※【佳作】大澤 佑輔(金沢地本)・村野 伴成(広島地本)

◆川柳・標語部門 応募総数：233点(193名)

賞	作者名・地本/所属	作品
最優秀賞	塩津 崇志(神戸地本・神戸運輸分会)	今だから 見せる団結 西労組
優秀賞	小森 賢一(福知山地本・福知山運輸分会)	おもいやり 助け合うこと 自粛せず

※【佳作】中島 健太(大阪地本)・西岡 歩(京都地本)・柳田 哲也(本社総支部)

◆その他作品部門 応募総数：5点(3名)

賞	作者名	地本・所属	作品名
【ブラカド】 応募数：1点			
最優秀賞	小森 賢一	福知山地本・福知山運輸分会	団 結
【4コマ漫画】 応募数：4点			
最優秀賞	細田 春菜	大阪地本・京橋電車区分会	「何事もほどほどに」 「臨月」
優秀賞	高松 友洋	福知山地本・篠山口列車区分会	「元旦」「かぶと」 「アレクサは待ってる」

◆一般作品部門 応募総数：6点(3名)

作者名	地本・所属	作品名
【書道部門】 応募数：5点		
茂上 学	中バス地本・山口分会	「勤儉力行」「同心協力」「一念通天」
北濱ゆめ(北濱 太)	米子地本・浜田列車区分会	「リモート」「バス」
【絵画部門】 応募数：1点		
細川優雅(細川由紀夫)	西バス地本・金沢分会	愛猫(母校中の癒し)